



# 中部人懇だより

令和6年度 第2号  
令和6年8月発行  
中部地区人権教育懇談会



「中部人懇」とは「中部地区人権教育懇談会」を略した呼び方です。被差別部落の完全解放をめざし、中部地区同和教育の推進を図ることを目的に、1971年(昭和46年)に発足しました。

「中部人懇」って  
こんな会です!



## 【第2回懇談会 報告】 期日:令和6年7月30日(火) 参加者 50名

差別の現実から深く学び、自らの実践を振り返るとともに、差別解消に向けて主体的に取り組む子どもを育成する人権教育のあり方について考えることをねらいとして開催しました。

### 【講義】

「指導参考資料(教職員用)部落差別の  
解消をめざして」について  
鳥取県教育委員会事務局人権教育課  
田村 公顕 係長

同和問題を扱った学びに関する課題の解決に向けて役立つ情報が入っているのが、この「指導参考資料」であるご紹介いただきました。

また、目指すところは、全ての人の自由と権利が守られ、誰もが自分らしく幸せを追求していくことができる社会をつかっていく担い手を育てていくこと、そのためのポイントの一つが、「人権教育を通して育てたい資質・能力」を拠り所(明確)にした教育実践であることをお話いただきました。各学校においても、ぜひ活用をお願いします。

### 【講義】

「1 から学ぶ同和問題」  
倉吉市人権文化センター  
下吉 真二 所長

児童生徒が「衝撃を受ける」「感動する」授業、「やらされる学習」から「おもしろい、わかる、楽しいと思える学習」へ授業改革を図っていくことの大切さをお話いただきました。また、「言っではいけない」は、被差別部落に対するマイナスイメージの刷り込みであり、「それはどういう意味?」「みんなはどう思う?」「みんなで考えてみよう」と児童生徒に問うていく、会話を大切にしていくことについてもお話いただきました。そして、部落史の見直しということで、差別された当時の人々は、今の現代社会につながる仕事や文化など、なくてはならない重要な役割を創造してきたことを具体的にお話いただき、指導者自身が学ぶこと、変わることの大切さを参加された先生方も感じておられました。



## 情報交換より

### ◆児童生徒に伝えたいこと、今後取り組みたいこと

- ・今までは「闘ってきた人たち」についての学習のイメージがあった。今回のお話を聞いて「支えてきた人たち」にも焦点をあてた学習をしたいと思った。
- ・知識だけでは不十分だが、必要な知識は伝えていかないといけない。そして、自分ごとになるような取り組みの工夫が必要だと感じた。
- ・同和問題を知らない、当事者の方に出会ったことがない若い先生が増えている。そのような先生たちに、私たちが大切にしてきたことを伝えていくことが大事だと思った。

## 参加者の振り返り(一部)

### ◆校内への学びの還元について

- ・「育てたい資質・能力」の中で、特に力を入れたいものを決めるだけでなく、その力をどの場面でどのようにつけるのか、各教科をその資質・能力でつなぐことを学んだ。夏季校内研修で職員と共有し、2学期以降に実践していきたい。
- ・自分の今までの知識・認識を更新し、校内研修をとおして、学校組織として部落差別をはじめとするあらゆる差別を許さない反差別の立場に立てる学校風土を作っていきたいと思った。
- ・差別の歴史や現実を子どもたちにどう伝えるか、考えさせられた。一方的な押し付けになってはいけないが、やはり教師の体験や思いをしっかりと伝えることは必要だと思う。また、下吉さんのお話にもあったように、「今の自分よりよりよい自分になれるように」ということを常に考えながら学習を進められたらと思った。